

EP\_005 ■それぞれの夏（5分15秒以上）

学校の教室	【状況説明】（1分00秒） 夏休み初日の学校で、ヒロユキは永澤の補習を受けていた。		
	001	●ナレーション風に	ヒロユキナレ 「夏休み。それは毎年夏に訪れ、俺たちが待ち焦がれている楽しい楽しい大型連休……のはず、だったんだけど。どういうわけか、俺は夏休み初日にもかかわらず、学校に来て永澤先生と向かい合っ て座っている」
	002	・軽くキレルヒロユキ	ヒロユキ 「って、なんでやねん！」
	003	●冷静に	永澤 「あら、何が？」
	004		ヒロユキ 「だーかーら、何で俺だけ夏休みに永澤先生と二人っきりで補習しなきゃならないんですか！俺にはこの夏やらなければならないことが山ほどあるというのに！」
	005		永澤 「だってヒロユキくんが成績不振なんだもの」
	006	・心にダメージ	ヒロユキ 「うっ」
	007	●さらっと	永澤 「1学期の期末テストであんな点数とらなかつたらこんなことしてないわ」

学校の教室	008	・更にダメージ	ヒロユキ	「ううっ」
	009		永澤	「だいたいヒロユキくんは……」
	010	・話をさえぎって ●生気が無い感じで	ヒロユキ	「もう、やめてください」
	011	●にっこり笑って	永澤	「じゃあ続きやりましょ」
	012	・いじける	ヒロユキ	「……はい。……ちえっ」
<p>【場所移動】(0分40秒) トモキとレイカはスーパーで買い物をしていた。</p>				
スーパー	013	・レイカはしいたけを見つける	レイカ	「あ、しいたけも買わないとね」
	014	●テンション低く	トモキ	「えー、俺しいたけ嫌いだし」
	015		レイカ	「だーめ。好き嫌いはよくないよ」
	016	・ここもテンションは低いままで ・トモキは基本テンション低い	トモキ	「レイカはわかってないな。しいたけを食べる方が俺の体にはよくないんだよ」
	017	●軽くあしらう	レイカ	「そんなわけないでしょ」

スーパ―	018		レイカ	「あ、ピーマンも必要だね」
	019	●論すように	トモキ	「だから、そういうことは一度お兄ちゃんに相談してからだなあ……」
	020	●トモキの話をまるで聞かない	レイカ	「あ、ニンジンも」
	021	●疲れて	トモキ	「……はあ」
<p>【場所移動】(0分45秒) ケンジは川原で、ひとりバーベキューの準備をしていた。</p>				
川原	022	・カラスの鳴き声とする	ケンジ	「って、もう夕方じゃねーか！」
	023		ケンジ	「だいたい、何で俺がひとりで準備してんだよ！ヒロユキはどうした、ヒロユキは」
	024	・遠くから走ってくるヒロユキ ●大声で走りながら	ヒロユキ	「おーい！ケンちゃん！」
	025		ケンジ	「ん？」
	026	・ケンジの前で停止 ●何事もなかったかのように	ヒロユキ	「っと。おっす、ケンちゃん」
	027	・ケンジに殴られるヒロユキ	ヒロユキ	「いでっ」

川原	028	●怒りをあらわに	ケンジ	「どんだけ遅刻してんだよ」	
	029	・両手を合わせて謝るヒロユキ	ヒロユキ	「ごっめーん。急にナガポンに呼び出されてさ、みっちり補習させられてたんだよね」	
	030	●疑うような目で	ケンジ	「ほーう……」	
	031	・もう一度殴るケンジ	ヒロユキ	「いでっ」	
	032	●なぜ殴られたか分からず頭を押えながら	ヒロユキ	「なんで！？仕方ないじゃん、補習なんだから！」	
	033		ケンジ	「恨むなら自分の頭の構造を恨むんだな」	
	034	●悲しそうに	ヒロユキ	「ケンちゃんのバカー」	
	035		ケンジ	「ほら、さっさと残りの準備するぞ」	
	036	●バツが悪そうに	ヒロユキ	「はーい」	
		—時間経過— (0分35秒)			
	037	・河原にレイカとトモキがやってくる	レイカ	「おまたせー。買い物手間取っちゃったー」	
038		ヒロユキ	「れーたんもトモっちもおっそーい！俺とケンちゃんの二人だけで準備大変だったんだぞー！」		

川原	039		ケンジ	「お前もさっき来たばかりかだろ」	
	040	・ヒロユキはほっぺを膨らませる	ヒロユキ	「ぶー」	
	041	●冷静に	トモキ	「ケンジは来るの早すぎなんだよ」	
	042	●トーンは低めに	ヒロユキ	「だよねー。せっかちだよねー」	
	043		ケンジ	「お前らは遅すぎんだよ！」	
	044	・ヒロユキはお調子者	ヒロユキ	「まあまあ、ここは落ち着いて。早く始めないとほんとに日が暮れちゃうよ？」	
	045	●まとめる感じで	レイカ	「そうだね。さっそく始めますか」	
	046	・「ビービーキュー」と読む	ヒロユキ	「よーし、レッツBBQだーいっ！」	
		—時間経過、食後— (2分15秒)			
	047	・すっかり日が暮れる ・みんなで横に並んで座っている	ヒロユキ	「はあ〜。食った食った」	
048	●軽く笑うかんじ	レイカ	「ふふっ」		
049		ケンジ	「どうしたんだ？」		

川原	050	・手を地面につけて空を見上げる	レイカ	「なんかさ、平和だなあって」
	051		ケンジ	「なんだそれ」
	052	●感慨深く	レイカ	「私たち、いつまで一緒にいられるのかなあ」
	053		ケンジ	「……さあな」
	054	●当たり前のように	トモキ	「これからも一緒だよ。だって生まれた時から一緒だったじゃん」
	055		ヒロユキ	「そりゃあ君たちは双子の兄妹だからね？」
	056	・間をおいてから	レイカ	「気づいたら中学三年生で、もう高校受験なんだろうと思うと、あまり実感が湧かないんだよね。だって私たち、小学校から何をするにも一緒に、泣いたり笑ったり、けんかもしたけど、それでもずっと一緒だった」
	057		ケンジ	「でも高校は同じとは限らない。こんな風にバカをやれるのも今年で最後かもしれない。そういうことだろ？」
	058		レイカ	「うん」

川原	059	●優しく	ケンジ	「大丈夫だよ」
	060		レイカ	「え？」
	061	●真面目に	ケンジ	「俺たちはそう簡単には変わらないさ。確かに、高校生になってこうして遊ぶ時間は減るかもしれないけど、俺たちがここまで築きあげてきた関係は変わらない」
	062		ヒロユキ	「うわあ、くっさ～」
	063	●毒を吐く感じで	トモキ	「今どきの若者にもこんな純粋な心を持った人がいたんですねー」
	064		ケンジ	「バ、バカ！俺はただ……」
	065	●茶化すように	ヒロユキ	「もう、照れなくていいって」
	066	●必死に否定	ケンジ	「照れてない！」
	067		トモキ	「お、照れ隠しですか」
	068		ケンジ	「ちげーよ！単なる怒りだよ！」
069	●なーんだという感じで	レイカ	「あーあ、私の心配も杞憂だったか」	

川原	070		ヒロユキ	「まあ、とりあえずさ、まだ夏休みは始まったばかりだよ」
	071		レイカ	「そうだね、まだ始まったばかりだ」
	072		トモキ	「中学生は中学生らしく、今を楽しまなきゃね」
	073		ケンジ	「ああ」
	074	●未来への希望が感じられるように	ケンジナレ	「それぞれ将来に不安はあるけど、それでも今を大切にしなくちゃいけない。はたから見たら何でもないことかもしれないけど、それはきっと、俺たちにとってはかけがえのない時間だから」